

企画総務委員会 送付 7－32

文化財、歴史的価値のある旧永田町小学校校舎を解体しないで活用するための陳情

受付年月日 令和7年10月15日

陳情者 提出者 2名

陳情書

令和7年10月15日

千代田区議会議長 秋谷こうき様

文化財、歴史的価値のある旧永田町小学校校舎を解体しないで活用するための陳情

陳情者 氏名

共同陳情者 氏名

理由

令和7年第3回千代田区議会により、旧永田町小学校校舎が解体対象となっていることを知り、建築の専門家として意見を申し上げます。

旧永田町小学校（以降永田町小学校）は文化財価値、歴史的価値があり、千代田区の財産として今後も持ち続け活用していくことが可能な建物で、その解体は地球温暖化防止対策を推進する国の方針にも逆行するものです。宝物である千代田区の財産を解体して、大量の二酸化炭素を排出するような区民の損失となる道を選択しないように、議会での審議をお願いいたします。

永田町小学校校舎は、昭和12年、東京市の設計により、耐震、耐火、採光、換気、衛生に考慮し、先進的新教育の場として竣工した鉄筋コンクリート、一部鉄骨造、地下1階、地上3階建ての校舎です。大正12年の関東大震災により117校の木造校舎が被災しました。永田町小学校は幸いにも被災を免れました。東京市では罹災した小学校を全て鉄筋コンクリート3階建ての同規格で建て替えを行い、罹災校舎の建て替えが終わった昭和6年からは、罹災しなかった木造校舎の建て替えに着手、永田町小学校はその仲間に入り同規格の校舎です。中でも他の小学校以上の設備を備えていたことが注目され、床暖房および温熱暖房のコンベクター設備が公立小学校では唯一敷設されました。竣工時から給食室が設けられ、永田町小学校が初めて実施というものが多くあります。体育館と講堂が別に設けられていたのは東京市では3校だけで、2階席ギャラリーや映写室を備えているのは永田町小学校が唯一です。

①文化財としての価値

関東大震災後に建て替えを行った東京市の小学校は、170校になります。昭和13年までの、16年間にこれだけ質の高い小学校を建築したことは、世界にも見ることができない一大事業です。焼け野原になった東京の復興には何より、次の時代を担う子どもに掛けるという当時の施政者の



姿勢が見て取れます。その証となる校舎も現時点で、20校となりました。

昭和11年に建築された国会議事堂を屋上から間近に望む永田町小学校の校舎は地域からも期待されました。玄関から校庭に出た部分の「ピロティー」、曲線を活かしたバルコニー、音楽室の全面ガラス、体育館と講堂の縦長の大きな窓など、当時世界的な潮流であった「モダニズム建築」として、道路の高低差と不整形な敷地という特殊な条件を巧みに活かした設計は当時でも優れた建築といえ、造形の規範となっています。

②歴史的価値

永田町小学校は我が国でも特殊で特別な場所の小学校に毎日多くの児童が集まり散じて学校生活を送っていました。場所柄多くの国家元首や夫人も訪れ、日本の小学校の代表として見学されたことは、大きな記憶的価値があり、日本文化のメッセンジャーでもありました。卒業生たちはそれを誇りに思ってきました。それは建物の歴史文化財価値に厚みを増すものです。

③今後の活用価値

千代田区は平成10年に耐震の精密診断を行い、コンクリートの強度及び、中性化はAランクで健全なコンクリートだと評価しています。IS値が現在の基準を下回る部分があり、耐震補強を勧めるとしています。これは耐震補強のできる建物であるということを示し、危険で直ちに解体すべきと評価しているものではありません。（耐震診断の見解は別書類を参照）

永田町小学校校舎は、立地条件と文化財、歴史的な価値を活かし、貴重な施設として活用するアイデアは多数あります。おもちゃ美術館として活用されている旧四谷第四小学校（昭和11年）、京都では、まんがミュージアムになった旧龍池小学校（昭和3年～12年）、高級ホテルに改修された旧清水小学校（昭和8年）の例もあります。